A decorative border of intricate, light-colored floral and vine patterns surrounds the central text. The border features swirling acanthus leaves, grapevines with clusters of grapes, and delicate flowers, creating a classic and elegant frame.

L'OPERA

ENCHANTED  
*by*  
BEL CANTO

大岩千穂

ベル・カントに魅せられて

L'OPERA コンサート

2011年11月18日(金) サントリーホール ブルーローズ

主催 Opus. 7

## ENCHANTED BY BEL CANTO

### 大岩千穂 ベルカントに魅せられて

#### L'OPERA コンサート

##### 第1部 イタリアの名曲から

ソプラノ：大岩千穂

ピアノ：森島英子

第1部曲目および解説は別紙参照ください

##### 休憩

##### 第2部 オペラ『椿姫』より ヴェルディ作曲

ヴィオレッタ・ヴァレリー：大岩千穂

アルフレード・ジェルモン：市原多朗

ジョルジョ・ジェルモン(アルフレードの父)：直野 資

ピアノ：森島英子

01. 乾杯の歌

02. 不思議だわ

03. 彼女から離れて

04. ヴァレリーさんですか

05. 力をお与えください

06. プロヴァンスの海と陸

07. 終幕への前奏曲

08. さようなら 過ぎ去った日々よ

09. バリを離れて

10. フィナーレ

ベルカント (Bel Canto)

美しい歌、美しい歌唱の意味で、イタリアオペラのみならず、ヨーロッパで広く長い歴史の中で大切にされている理想的な歌唱法。

音楽がごく一部の人々にだけ寵愛されていた時代から、現代のように多くの人が生活の一部として音楽を楽しめるようになるまでにどのような流れがあったのか、ふと考えることがあります。それはまさに、音楽が翼を広げ、重い扉を開け、自由に空を舞い、海を越え、涙や喜びの色を運ぶ役割に目覚めたのが始まりです。そこには多くの歴史にすら語られない人々の努力があったと想います。

ヴェルディはちょうど150年前のイタリアの統一に大きく貢献し、強い意思を持って音楽を国民に広めた人です。そこには、イタリアという国、そして国民への愛情を感じます。その想いが、ヨーロッパ、世界へと旅をして、彼の没後100年あまりが経過し、今も私たちの元に届いているのでしょうか。そこから見えてくる彼の想いはまさに、音楽がなぜ多くの人の生涯にすばらしい影響を与えてくれるかを物語っています。今日この日に、皆様とその想いを分かち合えることがわたしの一番の願いです。そして、これからも、日本が、世界がすばらしい音楽や演奏によって生きる希望と勇気を与えられ続けられることを祈っています。

L'opera公演『ベルカントに魅せられて』は、実現に向けて多くの方々の支えによって第1回を迎えることができました。

そして、市原多朗さん、直野資さん、森島英子さんとともに演奏できますことを幸せに想います。また、舞台には上がられませんが、演奏に集中できるようにあらゆる面でご助力くださいました多くの方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございます。

最後に、ゲーテが残した忘れられないフレーズをお届けします。

“女神を魔女に、うら若き乙女をみだらな女に作り変えるにはなんの芸もいらぬ。しかし、その逆をなしとげるのは、さげすまれた存在に尊厳を与え、墮落した存在を望ましいものと生まれ変わらせるのは、芸術の域あるいは舞台の上の業である” ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ

大岩千穂

# Story

## 椿姫

### 第一幕

パリ。ヴィオレッタの家のサロン。美人で有名なパリの高級娼婦ヴィオレッタ・ヴァレリーは、デュフォール男爵の庇護を受けています。そのヴィオレッタの家で開かれている夜会で、乾杯の歌を歌い始めるアルフレードに即興的に応えるヴィオレッタ。この時が二人の運命の出会いとなります。

#### 1. 乾杯の歌

『乾杯しよう。そして、このはかない時を楽しく酔いしれよう。愛が誘うやさしさに包まれて全能であるあのまなざしこそこの胸に…』とアルフレードがリードします。それに応えるヴィオレッタが、『楽しい時を皆さんと分かち合いましょう。この世で快樂でないものは全て虚しいもの。咲いては散りゆく花のように、訪れては消える愛の喜びを味わいましょう。それらは私達をいざなっています…』

乾杯の歌のあと、ダンスに誘われますが、ヴィオレッタは咳の発作に襲われ、一人残ります。そこにアルフレードが現れ、『一年前からあなたに恋をしていた』と告白されます。はじめは拒絶していた彼女も何かに突き動かされ自分の好きな椿の花を差し出します。『この花が枯れたら、つまり明日にでも会いに来てね』と誘います。再びヴィオレッタは一人になります。

#### 2. 不思議だわ

愛することを演じ続け、真に愛し愛されることを未だかつて実感したことのないヴィオレッタは、『不思議だわ…こんなに夢中にさせる男はいなかった。愛し愛される喜びをむげにすることができるかしら。』とアルフレードの告白に驚きと戸惑いを隠しきれず、一人の女性としての幸

せにすべてをゆだねたいと憧れを抱きます。しかし、『どうかしているわ。虚しい妄想だわ。かわいそうな女ね。パリと言われる人で埋まった砂漠の中で見捨てられて何を望み、何をするというの。楽しむことよ。快樂を無我夢中でむさぼり遊び回って死ぬことよ』と自分を納得させます。

### 第二幕

その後、アルフレードの愛によって、ヴィオレッタはパリの豪華な生活を捨て、パリ郊外の家で二人は同棲を始めます。アルフレードがヴィオレッタとの静かで幸せな生活を歌い上げます。

#### 3. 彼女と離れて

『彼女は、あの華やかな集いも富も安楽な暮らしも捨て、僕のためにすべてを忘れてくれている。僕は彼女のそばで生き返った気がする。僕のとぎる心の若々しい情熱を受け止めてくれた。あの日、彼女が私はあなたに忠実に生きて行きたいと言った日から、僕はこの世の全てを忘れて、まるで天国で暮らしている。』と歌い退場します。

アルフレードの父親ジョルジュ・ジェルモンが訪ねてきます。父親のいないヴィオレッタは喜んでアルフレードの父を迎えようとします。

#### 4. ヴァレリーさんですね

彼は「ヴァレリーさんですね。自分是你に誘惑され、破産したやつ父親…」と名乗り、二人の関係を断つようにヴィオレッタに迫ります。ヴィオレッタはアルフレードにはお金を無心せず、自分の宝石類を売ったことを話して、自尊心を守ろうとします。ジェルモンは声の調子を変え、威嚇するのは止めて、彼のもう一人の娘の幸福を壊さないためにアルフレードと別れてくれるよう懇願します。娘の婚約が彼の非常識

な関係が原因で破綻になりそうなのだ。ヴィオレッタは高い代償だと言いつつも、アルフレードからしばらく遠ざかっていることを承諾します。しかし、ジェルモンはさらにヴィオレッタが永遠にアルフレードを諦めることを求めます。動揺したヴィオレッタは『それはけっしてできません！どんなに激しく大きな愛情が、私の胸のうちに燃えているかご存知ないのですか？この世で私が頼りにするお友達も、縁者もないことを？そして、アルフレードが固い約束をして私を守ってくれることを。そして私の命が恐ろしい病気に侵されていることもあなたにご存知ないのですか？もう終わりが近いということも。』力の限り想いをぶつけます。絶望の淵に追い込まれたヴィオレッタに対して、『今はあなたも美しくお若い。しかし、男は移り気なもの。ああ、だから、そんな甘い夢から覚めて下さい…私の家族の慰めの天使になって下さい…』という言葉で最後に彼女はすべての欲望の灯火を消す。ヴィオレッタは泣きながら『美しく清らかなお嬢さんにお伝え下さい。ひとりの生け贄の不幸がはじまって、残されたたった一筋のしあわせの光を…あなたにささげて、死んでいくのだと！』そして、悲しみに打ちひしがれて、彼女は家族の幸福のために自分の幸福を犠牲にすることを受け入れます。彼女の亡き後、息子に彼女が犠牲になったことを伝えてくれることだけを頼みます。ジェルモンが帰ったあと、アルフレードを悩ませないように別れるのにはどうしたらよいか、苦しみ悩み、結局、自分が元の世界に戻るために彼と離別したいと別れの手紙を書きました。

#### 5. 力をお与え下さい

『ああ、神様、私に力をお与えください。なんて書けばいいの。いったい誰がその勇気を与えてくれるの。』一人言葉にならない言葉をささやく彼女の後ろ姿を見ながら、アルフレードが部屋に入ってきます。父親がやってきたことを知って、今から起ころうとすることを予感し恐れま

す。そんな彼の気持ちを察して、悟られまいと気丈に振る舞い、興奮して悲劇的に求愛します。『涙が必要だったのよ…いまは気がおさまったわ…ほら、分かる？もう笑っているでしょう…ここにいるわ、あの花と一緒に、いつもあなたのそばに。私を愛してね、アルフレード、私があなただけを愛していると同じだけ愛してね。さようなら。』と言ってヴィオレッタは走り去っていきます。少しして、ヴィオレッタの別れの手紙を受け取ったアルフレードは愕然とし、やってきた父親の腕の中に崩れ落ちました。父親ジェルモンは『プロヴァンスの海、プロヴァンスの地をだれがお前の心から忘れさせたのか？』と父親の身勝手ではあるが子どもを思う心情、プロヴァンス地方という田舎の名士の伝統的道德感を持って論じます。

#### 6. プロヴァンスの海と陸

『思い出しておくれ。ふるさととは平和がお前だけに輝きかけるということ。ああ、自分の年老いた父がどんなに苦しんだか、お前にはわかるまい』と嘆き、『名誉の声も完全にお前から消えてしまったのでもないとしたら、神様は私のことをお聞き下さったのだ。父親の愛情にこたえてくれないのかね？』とアルフレードに論じます。

#### 7. 終幕への前奏曲

あれから1ヶ月。ヴィオレッタは結核でベットにいなけらなくなりました。医師の「快復に向かっていますよ」という言葉にもそうでないことは自分にはよくわかっている、と、せめて彼女はアルフレードにもう一度だけ会えたらと想うのでした。彼女の人生そのもの、それをとりまく多くの機微をシンフォニーの形で見事に表現された部分です。ヴィオレッタはジョルジョ・ジェルモンからの手紙を何度も何度も読み返してきました。彼は息子に全てを打ち明け、「あなたのことを誤解していた息子はあなたに詫言のためパりに駆けつけています。私も参ります」と書かれていま

した。彼女は、悲痛な声で『もう遅すぎるわ』と叫び、アリアを歌い始めます。

#### 8. さようなら、過ぎ去った日々よ

瀕死のヴィオレッタはうわ言のようにアルフレードとの愛の日々を回想し、“道に迷った女の許しを神に乞い”立ち上ろうとしますが、熱に犯され死を予感した彼女は『さようなら、過ぎ去った日々よ。いまはみんな終ってしまったのだわ』と吐き出すように語りその場に倒れます。

窓の外からは謝肉祭を祝う仮装の人々の合唱が幻聴のように聞こえ、それがヴィオレッタにとっては過ぎ去った日々の華やかさと重なり、それらの日々のことが彼女の頭の中で走馬灯のように駆け巡ります。そこにアルフレードが駆け込んできて二人は抱き合い、アルフレードは過去の誤解を詫びます。そして二人は一緒に街を離れることを夢見るのです。

#### 9. パリを離れて

『愛する人よ、パリを離れよう。一緒に暮らしていこう。君の身体は、また元気を取り戻すだろう。ぼくには、君が風のそよぎや日の光になるだろう、未来が来ないはずはないもの。』というアルフレードの言葉を喜びでなぞるようにヴィオレッタも夢を見ます。

しかし、自分にはもう時間がないことを知っているヴィオレッタは教会へ再会の感謝をしたい、そして『お医者様にまだ生きていたいと伝えて！』と立ち上がろうとします。が、力のない自分を見つめ、この世の中で誰一人として自分を救えないのが定めなのだと悟ります。

『神様、これほど苦しみぬいた私は？こんなにながく続いた涙をぬぐう間際になって死ななければならないの？ああ、それなら信じていた希望は幻だったのね』

アルフレードは『ああ、愛する人よ。私には真実の愛が必要なのだと。ぼくのヴィオレッタ！ 気を静めておくれ。君の苦しみで、僕は死んで

しまいそうだと嘆きます。力なく息をするヴィオレッタのもとに父ジェルモンがかけつけ、いまや娘のように思うヴィオレッタに残された時間はわずかであることを感じます。この3人が会えたのは今でなければならなかった、そのことをなぜと問う力はもうヴィオレッタにはありませんでした。ただ、愛し愛される喜びを知った自分がこの世を去る前にひとつだけお願いしたいことがあるとアルフレードに自分の肖像画を贈り、彼女の死ですべてのしがらみから自由になってほしいと話します。

#### 10. フィナーレ

ヴィオレッタ:『愛する人、もっと私のそばに寄って…聞いてください…受け取ってくださいね…。これは昔の私の肖像画です…どんなに私があなたを愛していたかをこれで思いおこして欲しいの。』

アルフレード:『いや、死んじゃいけない、君は生きなきゃいけないんだ、いとしい人よ…』

ジェルモン:『気高い犠牲よ 私があなたの美しい心に与えた苦しみを許して下さい』

ヴィオレッタ:『もし清らかな女性が、あなたに心をささげるとしたら…その人と一緒になってくださいね…きっとね。この肖像画をその人にさし上げてほしいの。天国で天使と一緒にそのひととあなたのためにお祈りしている人の贈り物だと。』

アルフレード:『死が君をぼくから離すなんて、できない！ああ、生きていてくれ、さもないとぼくもきっと君と一緒に死んでしまうよ…』

最後に一瞬、はかない生の兆しが見えた後、ヴィオレッタは『不思議だわ！…苦しみの痙攣がなくなりました…私の中にいつにない力が…生まれ…働いている！…ああ、でも私、生きるんだわ！…ああ、うれしい！…』と言い、息をひきとる。

(椿姫全幕の幕切れ)

# Profile



## CHIHO OIWA(SOPRANO) 大岩 千穂 (ソプラノ)

国立音楽大学卒業。ヴィオッティ音楽院オペラ科マスター・コース首席卒業。イタリア、フラヴィアーノ・ラボー国際声楽コンクール第1位。ヴェルディの声国際コンクール入賞。第1回国際オペラコンクール in Shizuoka 最高位、及び三浦環賞他数々の国際コンクールに入賞。『椿姫』ヴィオレッタでイタリアデビュー後、98年サンタ・マルガレーテン・オペラ・フェスティバル（オーストリア）『カ

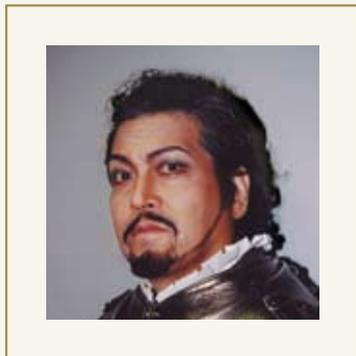
ルメン』ミカエラで急遽代役出演し大成功を取めた。99年ハンガリー国立歌劇場『ラ・ボエーム』ミミ、アスコリ・ピツェーノ歌劇場及びフェニーチェ歌劇場（イタリア）、『蝶々夫人』でタイトルロールを歌い絶賛された。02年フロリダ・パームビーチ・オペラ『蝶々夫人』（レナータ・スコット演出）でアメリカデビュー。03年には名門チェコフィルハーモニー管弦楽団、ボリショイ劇場管弦楽団とヴェルディ「レクイエム」で共演。国内では新国立劇場、東京二期会、藤原歌劇団の他などで数々の作品に出演し観客を魅了し続けて06年兵庫県立芸術文化センター『蝶々夫人』、09年びわ湖ホール『サロメ』、2010年愛知県文化振興事業団『ナブッコ』に出演し観客を魅了し続けている。真のリリコ・ピエーナの逸材としてさらなる活躍が期待されている。二期会会員。日本声楽アカデミー会員。



## TARŌ ICHIHARA(TENOR) 市原 多朗 (テノール)

東京芸術大学、同大学院修了。第48回日本音楽コンクール第1位、第15回日伊声楽コンクール第1位。80年二期会の「ウエルテル」でタイトルロールを歌いオペラ・デビュー。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院で研鑽を積む。82年リスボンのサン・カルロス歌劇場で海外デビュー。84年ザルツブルク音楽祭、パリ・オペラ座に日本人男性歌手として初登場。1984～1985年シーズンには、

パリ・オペラ座史上で、1シーズンの主役テノール歌手最多出場記録となる。以降、アメリカでは、メトロポリタン歌劇場（「仮面舞踏会」「リゴレット」「ルチア」「トスカ」「ばらの騎士」で7シーズン連続主役を務める。）、シカゴ・リリックオペラ他、イタリアでは、ナポリ・サンカルロ劇場、トリノ王立歌劇場、ボローニャ歌劇場、ドイツのハンブルク国立歌劇場、ケルン歌劇場、フランスのリヨン歌劇場、ニース・オペラ座、オランジュ夏の音楽祭、アルゼンチンのテアトロ・コロンの等、世界各地の歌劇場や音楽祭に招かれて歌っている。ショルティ、メータ、シャイー、マゼール等の著名指揮者のもと、正統派ベル・カントの圧倒的な美声と表現力で世界を舞台に活躍。芸術選奨文部大臣賞新人賞、ジロー・オペラ大賞、酒田市特別功労表彰受賞。

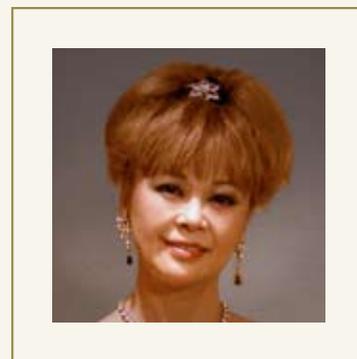


## TASUKU NAONO (BARITON)

### 直野 資 (バリトン)

東京芸術大学首席卒業（同時に安宅賞受賞）。日演連ソニー新人賞受賞。同大学院に学ぶと同時にイタリアへ留学。国立パルマ・アリーゴ・ボーイト音楽院を首席で修了。二期会創立40周年記念「シモン・ボッカネグラ」タイトルロール、藤原歌劇団「椿姫」ジェルモン、「アイダ」アモナズロの好演により、第21回ジロー・オペラ大賞を受賞。ブラジルのサンパウロ市立歌劇場に招かれ、「トス

カ」スカルピアを歌って大成功を収めるなど、国際舞台で活躍。以降、「トロヴァトーレ」ルーナ伯爵、「道化師」トニオをはじめ、「忠臣蔵」大石内蔵助、「ルイザ・ミラー」（日本初演）、等に主演。「マノン・レスコー」レスコー、「沈黙」フェレイラ、日韓オペラ「春香」サッド、「仮面舞踏会」レナート、「カルメン」エスカミリョ、「ボエーム」マルチェロ、「さまよえるオランダ人」「ファルスタッフ」「リゴレット」「ナブッコ」「ジャンニ・スキッキ」「俊寛」のタイトルロール、「オテロ」ヤーゴなど、ドラマティックな演唱で多くのファンを魅了し続けている。アルベルト・レオーネ、アントン・グワダーニョ、レナート・パルンボ、ジョルジョ・モランディ、ダニエル・オーレン等のオペラ共演も多い。演技指導はアントネッロ・マダウ・ディアツから受ける。二期会会員。東京芸術大学教授。



## EIKO MORISHIMA (PIANO)

### 森島英子 (ピアノ)

東京芸術大学卒業。中山靖子教授にピアノ独奏、中山悌一教授にピアノ伴奏を師事。文化庁派遣芸術家在外研修員として、シュトゥットガルト音楽大学に留学、K・リヒター教授のもとでリート科を修了。在学中より伴奏ピアニストとして演奏活動を開始、市原多朗、佐藤しのぶをはじめ多

くの声楽家諸氏と共演している。オペラの分野でも、日本有数のコレペティートル、チェンバリストとして活躍。モーツァルトのメモリアルイヤーには、年間80回にも及ぶオペラ公演に携わった。2007年「ボエーム」で指揮者としてもデビューした。オペラの日本語歌詞、字幕制作も手がける。また室内楽奏者としては、ウィーン・フィルのコンサートマスターR・キューヒル、W・ヒンク、R・ホーネック、D・ゲーデの各氏やベルリン・フィル、NHK交響楽団の首席奏者等とデュオ、トリオなどを共演。現在、N響室内合奏団のチェンバリストも務める。94年度新日鉄音楽賞特別賞受賞。東京芸術大学、沖縄県立芸術大学、東京音楽大学講師。

ソプラノ 大岩 千穂  
テノール 市原 多朗  
バリトン 直野 資  
ピアノ 森島英子

協賛  王子製紙株式会社  
MOA美術館 MOA MUSEUM OF ART

後援  公益財団法人 日伊協会  
公益財団法人 東京二期会  
NPO 法人 日本声楽家協会  
(日本声楽アカデミー)

協力 大岩千穂後援会

個人協賛 稲葉安子様 小川和子様  
篠田敦子様 高梨勝也様  
高柳美奈子様 浜井品子様

舞台装置 株式会社アートクリエイション  
衣装デザイン Yukinori Morinaga  
グラフィックデザイン 大橋 修 (thumb M)

Special Thanks 株式会社 AMATI  
サントリーホール運営部の皆様  
長澤正勝様 小林優仁様



平成23年度いわて特産品コンクール岩手県知事賞受賞

びんびん舎 自家製生マッコリ「セン」

<http://www.pyonpyonsya.co.jp>

L'OPERA